

組体操が与える教育的影響について

大野 芳隆 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 柴田 俊和

キーワード：組体操，教育的影響，中学生

1. 緒言

全国で組体操の事故が起きて問題となっている。平成 27 年 9 月大阪市教育委員会は、市立小中高校などの運動会や体育大会での組体操のひとつである「ピラミッド」の高さを 5 段まで、「タワー」を 3 段までとの制限を通知したが、9 月以降も組体操の事故が減らないことを受け、ピラミッドとタワーを全面禁止することにしたと、細川 (2016) が述べている。

近年、組体操にまつわる事故が多く発生しているため、組体操を批判する声が上がっている。しかし、組体操はマイナスばかりではないと考える。

組体操は、集団による協力する大切さや、コミュニケーション能力などの、今の教育に必要な要素を多く含んでいる。この要素を子どもたちに実感させることで、組体操から人として大切なこと、生きていく上での糧を得られることを本研究では明らかにしたいと考える。

2. 研究方法

本研究の対象は、大阪市立 A 中学 3 年生男子 61 名、担任・副担任の教員 8 名にアンケート調査とインタビュー調査を行う。

生徒には組体操を行う前と終わってからの 2 回に分けてアンケート調査を行った。先生方には、組体操を行う前はアンケート調査を行い、終わってからはインタビュー調査を行った。

3. 結果と考察

生徒たちの中には、ピラミッドをしたいと思っている生徒もいる。ピラミッドやタワー

は上限がある中で、どのようにして安全に取り組んでいくのかがとても重要になってくる。

組体操を実際に行って、成功した時の喜びや協力することの大切さも重要であり、学ぶことができる(学べた)と思うが、「仲間との信頼関係」と「最後までやりきった達成感」の方が学べたと生徒たちは感じている。成功させるためには、仲間を信頼しなければならない。仲間を信頼し協力し、しんどいことや辛いこともあったが仲間がいたから最後までやりきることができ、達成感を学ぶことができたのではないかと考える。

4. まとめ

組体操を通し仲間と協力し、できなかった演技ができるようになった時の達成感や、辛い時やしんどい時もあるが、友達同士で支えあうことで、信頼関係が生まれた。

このように、組体操は集団による協力する大切さや、コミュニケーション能力などの、今の教育に必要な要素を多く含んでおり、組体操を行うことで教育的影響を与えられることが明らかになった。

引用・参考文献

細川暁子 (2016) 組体操の事故を追いかけて。体育科教育第 64 巻 第 5 号:22-25.

三宅良輔 (2016a) 組立体操の安全な組み立て方と解体の仕方。体育科教育第 64 巻 第 5 号:56-60.

三宅良輔 (2016b) 安全で楽しい組立体操の技法。いま、何を、どう指導すべきか、体育科教育 2016 第 64 巻 第 12 号:58-61.